

セッション	D. 言語行動・日本語教育 (2014. 3. 22 於 北京日本学研究中心)
タイトル	コミュニケーションにおける日中の「丁寧さ」
著者名(所属)	王源 (外交学院)
連絡先Eメール	Wangyuan1977@yahoo. co. jp
論文内容	
<p>(背景および研究目的)</p> <p>コミュニケーションにおける「丁寧さ」と言ったときに、日本語についてまず想起されるのは敬語であろう。しかし、いくら敬語が正しくても「丁寧」とならない時がある。中国語には日本語のような尊敬語や謙譲語、丁寧語などの体系がなくても、状況に応じて、丁寧な言い方、礼儀にかなった表し方がある。ここで言う「丁寧さ」とはさまざまな状況に応じて、相手との対人関係をなるべく良好に保ち、自分にも相手にも互いにとって心地よいコミュニケーションを作り上げていこうとする言語行動である。人と接するとき、どのような行動を「丁寧」と認めるかについては、さまざまな感じ方や考え方があり得る。異なる言語や文化を背景に持てば人々の「丁寧さ」の表し方も違う。本研究はコミュニケーションにおいて日本人と中国人はそれぞれの「丁寧さ」をどのようなところに見出しているか、また、その「丁寧さ」がどのような行動に現れているのかを考察する。</p> <p>(検討方法等)</p> <p>本研究は謝罪場面と断り場面という二種の場面で、大学の先生と親しい友人という二種類の相手を設定し、中国人大学生と日本人大学生を対象として質問紙調査を行った。質問紙調査の結果分析により、日本語母語話者と中国語母語話者の行動の特徴的傾向がとらえられたところで、それぞれがなぜそのような行動が行うのかを探るため、意識調査を行った。</p> <p>(結果および考察)</p> <p>1. 日本語は言語形式の上では、普通体と丁寧体の使い分けがあるため、言語形式の切り替えで、先生に敬意を表す。中国語では、言語形式での使い分けがないため、〈呼びかけ〉を使うことで先生に対する敬意を表す。</p> <p>つまり、日中とも先生に対して敬意を表すが、日本人は言語形式により、中国人は〈呼びかけ〉の使用によるという違いが見られた。</p> <p>2. 面接調査の回答では、日本人は友人に対して、自分の申し訳ない気持ちを伝えるため、何度も詫び表現を使うのに対し、あらたまった場合や先生に対しては、詫び表現を繰り返さず、使用回数が少ない。中国人は親しい友人に対して詫び表現を使わず、使うとよそよそしく感じられる。一方、先生に対しては友人より使用回数が増え、しかも、敬意を表すため、複数回言う。</p> <p>つまり、詫び表現は、日本人にとっては自分の申し訳ない気持ちを伝える心情的訴えとして機能しているのに対して、中国人の場合は丁寧さや礼儀正しさの表現となっているのではないかと考えられる。</p> <p>3. 友人に対して中国人は〈親しさへの言及〉〈冗談〉などのような自分が相手と同じ立場で、同じ仲間であることを示しているのに対し、日本人は〈相手からの恩恵への言及〉〈感謝〉を示すことで、相手を自分より上の立場にいる人間として待遇している。</p> <p>(結論)</p> <p>二種の場面においては、日中ともに先生に対しては敬意を表して接するという点が共通している。日本人は丁寧体や丁寧な詫び表現を使うなど言語形式の上で丁寧さを表しているのに対して中国人は呼びかけをしたり、詫び表現を多く使ったりすることで丁寧さを表している。</p> <p>友人に対しては日本人は対人的な配慮を示す態度から入り、相手が自分より優位な立場にいることを示すのに対して中国人はお互いに同じ立場で、同じ仲間であることを示している。</p>	
参考文献	
<p>王源 (2011) 『コミュニケーションにおける中日謝罪行為の比較』学苑出版社 2011年11月</p> <p>熊谷智子 (2006) 「コミュニケーションにおける「丁寧さ」について」『待遇コミュニケーション研究』第4号</p>	